

(様式第 10)

琉大医総第 461 号  
平成 29 年 10 月

厚生労働大臣

殿

琉球大学医学部附属病院長  
藤田 次郎

琉球大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
氏 名	国立大学法人琉球大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

琉球大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地	電話(098) 895 - 3331
--------------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1呼吸器外科                      2消化器外科                      3乳腺外科                      4心臓外科	
5血管外科                      (6)心臓血管外科                      7内分泌外科                      8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科    (2)小児科    (3)整形外科    (4)脳神経外科    (5)皮膚科    (6)泌尿器科    7産婦人科
(8)産科    (9)婦人科    (10)眼科    (11)耳鼻咽喉科    (12)放射線科    13放射線診断科
14放射線治療科    (15)麻酔科    (16)救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科    2矯正歯科    3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経科    2 呼吸器科    3 消化器科    4 循環器科    5 病理診断科    6 形成外科    7 リハビリテーション科						
8 歯科口腔外科    9                      10                      11                      12                      13						
14                      15                      16                      17                      18                      19                      20						
21						

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	6床	4床	床	550床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	360人	6.0人	366.0人	看護補助者	72人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	18人	3.4人	21.4人	理学療法士	12人	臨床検査技師	41人
薬 剤 師	39人	0.7人	39.7人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	27人	0人	27.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	595人	18.5人	613.5人	臨床工学士	21人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0.7人	0.7人	栄 養 士	0人	その他の技術員	45人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯科技工士	0人	事務職員	136人
管理栄養士	8人	0人	8.0人	診療放射線技師	35人	その他の職員	156人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22人	眼科専門医	11人
外科専門医	25人	耳鼻咽喉科専門医	14人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	14人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	2人
		合 計	179人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 藤田 次郎 ) 任命年月日 平成29年 4月 1日

医療安全管理委員会構成員  
 医療安全調査委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	510.1人	16.0人	526人
1日当たり平均外来患者数	1116.8人	56.1人	1172.9人
1日当たり平均調剤数	882.0 剤		
必要医師数	115.3人		
必要歯科医師数	4.8人		
必要薬剤師数	18人		
必要(准)看護師数	287人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	163.07m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 54.25m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 0台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 医薬品情報室・薬剤部員室					
化学検査室	350.60m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動蛍光免疫測定装置			
細菌検査室	126.94m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動迅速同定感受性測定装置			
病理検査室	151.73m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 脱水・脱脂パラフィン浸透装置			
病理解剖室	58.44m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) SL写真撮影装置			
研究室	6101.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) HSオールインワン蛍光顕微鏡システム			
講義室	525.91m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	374人
図書室	807.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	5室	蔵書数	117,015冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.9%	逆紹介率	57.0%
算出根拠 A: 紹介患者の数			11,585人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,132人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			909人
D: 初診の患者の数			16,021人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
赤嶺 真也	赤嶺法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
儀間 小夜子	NPO 法人こども医療支援わらびの会		医療を受ける立場にある者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
矢野 恵美	琉球大学大学院法務研究科		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
嘉目 克彦	琉球大学		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法	大学公式ホームページ及び病院公式ホームページでの公表









(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	ハイリスク症候性人工弁周囲逆流に対する経カテーテル逆流閉鎖術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 開胸手術がハイリスクである、有症候性人工弁周囲逆流に対し経カテーテル的に(経大腿静脈アプローチもしくは経心尖部アプローチ)閉鎖デバイスを挿入し、人工弁周囲逆流を制御する術式			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	56	球脊髄性筋萎縮症	26	ベーチェット病	26
10	57	筋萎縮性側索硬化症	30	特発性拡張型心筋症	30
1	58	脊髄性筋萎縮症	3	肥大型心筋症	3
0	59	原発性側索硬化症	0	拘束型心筋症	0
10	60	進行性核上性麻痺	12	再生不良性貧血	12
44	61	パーキンソン病	0	自己免疫性溶血性貧血	0
5	62	大脳皮質基底核変性症	1	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
2	63	ハンチントン病	22	特発性血小板減少性紫斑病	22
0	64	神経性棘赤血球症	0	血栓性血小板減少性紫斑病	0
1	65	シャルコー・マリー・トゥース病	4	原発性免疫不全症候群	4
32	66	重症筋無力症	47	IgA腎症	47
0	67	先天性筋無力症候群	15	多発性嚢胞腎	15
30	68	多発性硬化症/視神経脊髄炎	4	黄色靭帯骨化症	4
9	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	31	後縦靭帯骨化症	31
1	70	封入体筋炎	12	広範脊柱管狭窄症	12
0	71	クドウ・深瀬症候群	55	特発性大腿骨頭壊死症	55
13	72	多系統萎縮症	10	下垂体性ADH分泌異常症	10
7	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	1	下垂体性TSH分泌亢進症	1
11	74	ライソゾーム病	6	下垂体性PRL分泌亢進症	6
2	75	副腎白質ジストロフィー	5	クッシング病	5
6	76	ミトコンドリア病	1	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
14	77	もやもや病	16	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
1	78	プリオン病	56	下垂体前葉機能低下症	56
5	79	亜急性硬化性全脳炎	2	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
0	80	進行性多巣性白質脳症	0	甲状腺ホルモン不応症	0
7	81	HTLV-1関連脊髄症	3	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
0	82	特発性基底核石灰化症	0	先天性副腎低形成症	0
3	83	全身性アミロイドーシス	0	アジソン病	0
1	84	ウルリッヒ病	50	サルコイドーシス	50
2	85	遠位型ミオパチー	5	特発性間質性肺炎	5
0	86	ベスレムミオパチー	10	肺動脈性肺高血圧症	10
0	87	自己食食空胞性ミオパチー	0	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
0	88	シュワルツ・ヤンペル症候群	11	慢性血栓性肺高血圧症	11
10	89	神経線維腫症	5	リンパ脈管筋腫症	5
42	90	天疱瘡	40	網膜色素変性症	40
0	91	表皮水疱症	5	バッド・キアリ症候群	5
17	92	膿疱性乾癬(汎発型)	1	特発性門脈圧亢進症	1
3	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群	46	原発性胆汁性肝硬変	46
0	94	中毒性表皮壊死症	0	原発性硬化性胆管炎	0
15	95	高安動脈炎	5	自己免疫性肝炎	5
1	96	巨細胞性動脈炎	124	クローン病	124
2	97	結節性多発動脈炎	117	潰瘍性大腸炎	117
15	98	顕微鏡的多発血管炎	6	好酸球性消化管疾患	6
9	99	多発血管炎性肉芽腫症	0	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
2	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
4	101	悪性関節リウマチ	0	腸管神経節細胞減少症	0
30	102	バージャー病	0	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
0	103	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	CFC症候群	0
115	104	全身性エリテマトーデス	0	コステロ症候群	0
50	105	皮膚筋炎/多発性筋炎	0	チャージ症候群	0
79	106	全身性強皮症	0	クリオピリン関連周期熱症候群	0
15	107	混合性結合組織病	0	全身型若年性特発性関節炎	0
14	108	シェーグレン症候群	0	TNF受容体関連周期性症候群	0
2	109	成人スチル病	0	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
0	110	再発性多発軟骨炎	0	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	3
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治型回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	3	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	4	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	5	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性降炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	7

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	カナバン病	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
0	進行性白質脳症	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
0	進行性ミオクローヌスてんかん	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
0	先天異常症候群	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
0	先天性三尖弁狭窄症	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
0	先天性僧帽弁狭窄症	324	メチルグルタコン酸尿症	0
0	先天性肺静脈狭窄症	325	遺伝性自己炎症疾患	0
0	左肺動脈右肺動脈起始症	326	大理石骨病	0
0	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
0	カルニチン回路異常症	328	前眼部形成異常	0
0	三頭酵素欠損症	329	無虹彩症	0
0	シトリン欠損症	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般:7:1、精神:13:1、結核:7:1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・臨床研修病院入院診療加算(医科(基幹型)・歯科(単独型))	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算2
・超急性期脳卒中加算	・退院支援加算1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・精神科急性期医師配置加算
・医師事務作業補助体制加算1(40対1)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者 5割未満)	・特定集中治療室管理料1
・看護職員12対1夜間配置加算2	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・看護補助加算2(精神病棟)	・新生児特定集中治療室管理料1
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・植込型除細動器移行期加算	・遺伝学的検査
・高度難聴指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・がん患者指導管理料1	・検体検査管理加算(Ⅱ)
・がん患者指導管理料2	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料3	・植込型心電図検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・時間内歩行試験
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・シャトルウォーキングテスト
・糖尿病透析予防指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・院内トリアージ実施料	・皮下連続式グルコース測定
・外来リハビリテーション診療料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来放射線照射診療料	・光トポグラフィー検査
・ニコチン依存症管理料	・神経学的検査
・がん治療連携計画策定料	・補聴器適合検査
・がん治療連携管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・認知証専門診断管理料	・内服・点滴誘発試験
・肝炎インターフェロン治療計画料	・センチネルリンパ節生検(片側)(単独法)
・排尿自立指導料	・センチネルリンパ節生検(片側)(併用法)
・薬剤管理指導料	・画像診断管理加算2
・医療機器安全管理料1	・遠隔画像診断
・医療機器安全管理料2	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・歯科治療総合医療管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・冠動脈CT撮影加算
・持続血糖測定器加算	・心臓MRI撮影加算



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来化学療法加算1	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・無菌製剤処理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に係るものに限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療に係るものに限る)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)(初期加算)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1(乳腺悪性腫瘍手術の加算)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)(初期加算)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2(乳腺悪性腫瘍手術の加算)
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳病切除後)
・運動器リハビリテーション料(I)(初期加算)	・経皮的冠動脈形成術
・呼吸器リハビリテーション料(I)(初期加算)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・がん患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・集団コミュニケーション療法料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的中隔心筋焼却術
・医療保護入院等診療料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・硬膜外自家血注入	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・一酸化窒素吸入療法	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術	・両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算(皮膚悪性腫瘍切除術の加算)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・経皮的冠動脈遮断術
・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	・ダメージコントロール手術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下肝切除術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜仮装剥離術
・網膜再建術	・同種死体腎移植術
・人工中耳用材料	・生体腎移植術

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・病理診断管理加算2
・人工尿道括約筋植込・置換術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・
・胃瘻造設術	・
・輸血管理料Ⅱ	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・麻酔管理料(Ⅰ)	・
・麻酔管理料(Ⅱ)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他のもの)	・
・直線加速器による定位放射線治療	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・テレパソロジーによる術中迅速病理診断組織標本作製	・
・テレパソロジーによる術中迅速細胞診	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	・
・硬膜外自家血注入療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	・病理部症例検討会 3回/年 ・検査・輸血部症例検討会 34回/年
剖検の状況	剖検症例数 19例 / 剖検率 9.7%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
食事中的亜硝酸/硝酸の不足にて生じる代謝症候群の分子機構の解明と新規治療法の開発	喜名美香	歯科口腔外科	1,040,000	③補委 日本学術振興会 科研費
個別化医療のためのバイオマーカーの探索研究	中村克徳	薬剤部	150,000	③補委 日本学術振興会 科研費
若齢期の高脂肪食や甘味料曝露による食の嗜好性構築/記憶化(学習)メカニズムの解明	屋比久浩市	第二内科	2,336,129	③補委 日本学術振興会 科研費
ヒト未固定屍体を用いた顔面の血液還流経路の解析	清水雄介	形成外科	276,067	③補委 日本学術振興会 科研費
超高齢者の血管内皮前駆細胞数、 $\omega$ -3系脂肪酸および脳画像的特徴と認知機能との相関	渡嘉敷崇	第三内科	660,278	③補委 日本学術振興会 科研費
SERS法を用いた大腸癌早期診断法の確立	金城達也	第一外科	924,092	③補委 日本学術振興会 科研費
脳機能画像による痙攣性発声障害の発声時の脳機能解析	喜友名朝則	耳鼻咽喉科	2,599,383	③補委 日本学術振興会 科研費
マウス全脳虚血後遅発性神経細胞死に対する硫化水素吸入療法の効果	安部真教	麻酔科	910,000	③補委 日本学術振興会 科研費
ヒト乳頭腫ウイルス 関連頭頸部癌における樹状細胞を用いた新規ワクチン療法の開発	上原貴行	耳鼻咽喉科	1,304,287	③補委 日本学術振興会 科研費
頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸受容体の発現解析	又吉宣	耳鼻咽喉科	614,625	③補委 日本学術振興会 科研費
骨肉腫肺転移に関するマイクロRNAの検討	當銘保則	高気圧治療部	1,276,892	③補委 日本学術振興会 科研費

一酸化窒素合成酵素系完全欠損下の脳梗塞縮小現象と次世代治療確立への応用	久保田陽秋	麻酔科	2,234,160	補委	日本学術振興会 科研費
口唇口蓋裂に関連する遺伝子と予防に関する研究-世界的に未報告のラオス人を中心に-	後藤尊広	歯科医師臨床研修支援室	520,540	補委	日本学術振興会 科研費
3MST knock out マウスを用いた血圧調整機序の解明	戸塚裕一	第二外科	2,826,090	補委	日本学術振興会 科研費
抗体医薬リツキシマブ投与によるインフュージョンリアクション発症メカニズムの解明	中村克徳	薬剤部	1,880,000	補委	日本学術振興会 科研費
がん診療の質指標の評価結果をフィードバックすることで、診療の質の向上を図れるか?	増田昌人	がんセンター	1,242,364	補委	日本学術振興会 科研費
肝細胞癌の高精度放射線治療効果を高めるための放射線性肝障害病態解明	岡田真広	放射線科	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
神経膠芽腫に対する多剤併用分子標的療法の確立	渡邊孝	脳神経外科	482,620	補委	日本学術振興会 科研費
ヒト卵子形成および胚発生における卵胞液中・血中脂肪酸の影響	銘苺桂子	周産母子センター	1,719,960	補委	日本学術振興会 科研費
積層化脂肪組織由来幹細胞シート移植による陳旧性顔面神経麻痺治療法の開発	清水雄介	形成外科	962,944	補委	日本学術振興会 科研費
カベオリン1発現調節による固縮軽減の試み-ラット脊髄虚血モデルにおける検討-	神里興太	麻酔科	2,210,000	補委	日本学術振興会 科研費
腎癌血清で減少する糖蛋白の生物学的役割と臨床的意義	仲西昌太郎	腎泌尿器外科	1,148,245	補委	日本学術振興会 科研費

HPV関連頭頸部癌に対する新規分子標的薬の開発	近藤俊輔	耳鼻咽喉科	909,815	補 委	日本学術 振興会 科 研費
ヒト培養リンパ節の開発	山崎俊	形成外科	606,558	補 委	日本学術 振興会 科 研費
現場に根ざした医療組織 倫理の構築に向けた基礎 的研究	金城隆展	地域医療部	193,730	補 委	日本学術 振興会 科 研費 (研究分担 者)
化学物質の安全性と発が ん性リスク評価のための 短・中期バイオアッセイ系 の開発	吉見直己	病理部	14,072,000	補 委	厚生労働 省 科研費
成人の重症肺炎サーベイ ンス構築に関する研究	藤田次郎	第一内科	500,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
男性同姓間のHIV感染予 防対策とその介入効果の 評価に関する研究	健山正男	第一内科	400,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
がんの診療科データベー スとJapanese National Cancer Database(JNCDB) の運用と他がん登録との 連携	戸板孝文	放射線科	100,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
特発性大腿骨頭壊死症の 疫学調査・診断基準・重症 度分類の改訂と診療ガイド ライン策定を目指した大規 模多施設研究	仲宗根哲	整形外科	200,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
全国がん登録、院内がん 登録および既存がん統計 情報の活用によるがん及 びがん診療動向把握に関 する包括的研究	増田昌人	がんセンター	200,000	補 委	厚生労働 省 科研費 (研究分担 者)
革新的高次脳機能治療法 の樹立	石内勝吾	脳神経外科	66,000,000	補 委	労災疾病 臨床研究 事業費補 助金
術野付近の視認性を改善 するための高機能プラス チック製開創器の開発・事 業化	清水 雄介	形成外科	1,131,232	補 委	日本医療 研究開発 機構(研究 分担者)
原因不明遺伝子関連疾患 の全国横断的症例収集・ バンキングと網羅的解析	我那覇 章	耳鼻咽喉科	2,340,000	補 委	日本医療 研究開発 機構(研究 分担者)

小計 25

小計 6

小計 1

「ISO/TC251における国際規格策定に資する科学的 研究と調査および統合医 療の一翼としての漢方・鍼 灸の基盤研究」	廣瀬 康行	医療情報部	1,700,000	補 委	日本医療 研究開発 機構(研究 分担者)
新規バイオマーカーを用 いたスコア法によるIgA腎 症早期発見・早期診断を 介した透析移行ゼロ化に 向けた試み	古波蔵 健太郎	血液浄化療法部	500,000	補 委	日本医療 研究開発 機構(研究 分担者)
HAMの革新的な医薬品等 の開発促進に関する研究	崎間 洋邦	第三内科	780,000	補 委	日本医療 研究開発 機構(研究 分担者)
HAMに対する日本発の革 新的治療となる抗CCR4抗 体の実用化研究	崎間 洋邦	第三内科	3,640,000	補 委	日本医療 研究開発 機構(研究 分担者)
幹細胞創薬を目指した培 養脂肪組織由来幹細胞 (ADSCs)による再生治療 法の開発	清水 雄介	形成外科	4,995,000	補 委	公益財団 法人沖縄 科学技術 振興セン ター(沖縄 県再委託)
国際医療拠点を目指した 琉球大学での再生医療基 盤形成	藤田 次郎	第一内科	33,696,000	補 委	一般社団 法人 沖縄 総合科学 研究所(沖 縄県再委 託)

小計 8

計 40

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Parrott GL, Kinjo T, Fujita J	第一内科	A Compendium for Mycoplasma pneumoniae.	Frontiers in Microbiology. 2016 Apr;12;7:513	Original Article
2	Arakaki S, Maeshiro T, Hokama A, et al.	第一内科	Factors associated with visceral fat accumulation in the general population in Okinawa, Japan.	World Journal of Gastrointestinal Pharmacology and Therapeutics. 2016 May 6;7(2):261-7	Original Article
3	Hirai J, Yamagishi Y, Kinjo T, et al.	第一内科	Osteomyelitis caused by Veillonella species: Case report and review of the literature.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2016 Jun;22(6):417-20	Case report
4	Hirai J, Uechi K, Hagihara M, et al.	第一内科	Bacteremia due to Streptococcus tigurinus: A case report and literature review.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2016 Nov;22(11):762-766	Case report
5	Hirai J, Sakanashi D, Hagihara M, et al.	第一内科	Bacteremia due to Citrobacter braakii: A case report and literature review.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2016 Dec;22(12):819-821	Case report
6	Hirai J, Kinjo T, Tome T, et al.	第一内科	Meningococcal pneumonia in Japan: A case report and literature review.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2016 Dec;22(12):833-836	Case report
7	Hirai J, Sakanashi D, Haranaga S, et al.	第一内科	Case-control study of pneumonia patients with Streptococcus anginosus group bacteria in their sputum.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2016 Dec;22(12):794-799	Original Article
8	Nabeya D, Kinjo T, Miyagi K, et al.	第一内科	Yellow broncho-alveolar lavage fluid in eosinophilic pneumonia.	Internal Medicine. 2016;55(21):3227-3228	Original Article
9	Iha Y, Kinjo T, Parrott GL, et al.	第一内科	Comparative epidemiology of influenza A and B viral infection in a subtropical region: a 7-year surveillance in Okinawa, Japan.	BMC Infectious Diseases. 2016 Nov 8;16(1):650	Original Article

10	Arae H, Tateyama M, Nakamura H, et al.	第一内科	Evaluation of the lipid concentrations after switching from antiretroviral drug tenofovir disoproxil fumarate/emtricitabine to abacavir sulfate/lamivudine in virologically-suppressed human immunodeficiency virus-infected patients.	Internal Medicine. 2016;55(23):3435-3440	Original Article
11	Higashiarakawa M, et al.	第一内科	Normal serum IgE levels and eosinophil counts exhibited during Strongyloides stercoralis infection.	Parasitology International. 2017 Feb;66(1):807-812	Original Article
12	Morichika K, Tomoyose T, Hanashiro T, et al.	第二内科	Recurrence of psoriasis vulgaris accompanied by the treatment with C-C chemokine receptor type 4 (CCR4) antibody (Mogamulizumab) therapies in a patient with adult T cell leukemia/ lymphoma: Insight into autoinflammatory syndrome.	Internal Medicine. 2016 May;55:1345-1349	Case report
13	Nishi Y, Fukushima T, Nomura S, et al.	第二内科	Characterization of patients with aggressive adult T-cell leukemia-lymphoma in Okinawa, Japan: a retrospective analysis of a large cohort.	Internal Journal of Hematology. 2016 Jun;104:468-475	Original Article
14	Morichika K, Nakachi S, Tomoyose T, et al.	第二内科	Thromboembolism Supervened on Eosinophilia Induced by Mycoplasma Pneumonia.	Internal Medicine. 2016 Feb;55:2741-2742	Others
15	Nakamura T, Yamazato M, Ishida A, et al.	第三内科	Excess of Aminopeptidase A in the Brain Elevates Blood Pressure via the Angiotensin II Type I and Bradykinin B2 Receptors without Dipsogenic Effect.	International Journal of Hypertension. 2017 Mar;ArticleID3967595 (オンライン)	Original Article
16	Zamami R, Kohagura K, Miyagi T, et al.	第三内科	Modification of the impact of hypertension on proteinuria by renal arteriolar hyalinosis in nonnephrotic chronic kidney disease.	Journal of Hypertension. 2016 Nov;34(11):2274-9	Original Article
17	Kochi M, Kohagura K, Shiohira Y, et al.	第三内科	Inflammation as a Risk of Developing Chronic Kidney Disease in Rheumatoid Arthritis.	PLoS One. 2016 Aug;11(8):e0160225 オンライン	Original Article
18	Toma Y, Ishida A, Kinjo K, et al.	第三内科	CORRIGENDUM: Change in Ankle-Brachial Index Over Time in a Screened Japanese Cohort - The Okinawa Peripheral Arterial Disease Study.	Circulation Journal. 2016 Aug;80(10):2255	Original Article
19	Kinjo Y, Ishida A, Kinjo K, et al.	第三内科	A high normal ankle-brachial index combined with a high pulse wave velocity is associated with cerebral microbleeds.	Journal of Hypertension. 2016 Aug;34(8):1586-93	Original Article
20	Kohagura K, Tana T, Higa A, et al.	第三内科	Effects of xanthine oxidase inhibitors on renal function and blood pressure in hypertensive patients with hyperuricemia.	Hypertension Research. 2016 Aug;39(8):593-7	Original Article

21	Chinen T, Hirayasu T, Kuniyoshi Y, et al.	第二外科	Experimental Reconstruction of the Trachea with Urinary Bladder Wall.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2016 Jun 20;22(3):153-60	Original Article
22	Tome Y, Uehara F, Miwa S, et al.	整形外科	Efficacy of the combination of a PARP inhibitor and UVC on cancer cells as imaged by focus formation by the DNA repair-related protein 53BP1 linked to green fluorescent protein.	Anticancer Research. 2016 Aug;36(8): 3821-6.	Original Article
23	Tome Y, Yano S, Sugimoto N, et al.	整形外科	Use of $\alpha v$ Integrin linked to green fluorescent protein in osteosarcoma cells and confocal microscopy to image molecular dynamics during lung metastasis in nude mice.	Anticancer Research. 2016 Aug;36(8): 3811-6.	Original Article
24	Higa K, Kitamura N, Kurokawa T, et al.	整形外科	Fundamental biomaterial properties of tough glycosaminoglycan-containing double network hydrogels newly developed using the molecular stent method.	Acta biomaterialia. 2016 Oct 1;43:38-49.	Original Article
25	Kiyuna T, Murakami T, Tome Y, et al.	整形外科	Labeling the stroma of a Patient-Derived Orthotopic Xenograft (PDOX) mouse model of undifferentiated pleomorphic soft-tissue sarcoma with red fluorescent protein for rapid non-invasive imaging for drug screening.	Journal of cellular biochemistry. 2017 Feb; 118(2):361-5.	Original Article
26	Tome Y, Kimura H, Kiyuna T, et al.	整形外科	Disintegrin targeting of an $\alpha v \beta 3$ integrin-over-expressing high-metastatic human osteosarcoma with Echistatin inhibits cell proliferation, migration, invasion and adhesion in vitro.	Oncotarget. 2016 Jul 19;7(29):46315-20.	Original Article
27	Tome Y, Yano S, Sugimoto N, et al.	整形外科	Use of $\alpha v$ integrin linked to GFP to image molecular dynamics in trafficking cancer-cell emboli.	Journal of cellular biochemistry 2017 Jan;118(1):26-30.	Original Article
28	Kiyuna T, Murakami T, Tome Y, et al.	整形外科	High efficacy of tumor-targeting salmonella typhimurium A1-R on a doxorubicin- and dactolisib-resistant follicular dendritic-cell sarcoma in a patient-derived orthotopic xenograft PDOX nude mouse model.	Oncotarget. 2016 May 31;7(22):33046-54.	Original Article
29	Tome Y	整形外科	Cover Image, Volume 118, Number 1, January 2017.	Journal of cellular biochemistry. 2017 Jan; 118(1):i.	Others
30	Tome Y	整形外科	The disintegrin echistatin in combination with doxorubicin targets high-metastatic human osteosarcoma overexpressing $\alpha v \beta 3$ integrin in chick embryo and nude mouse models.	Oncotarget. 2016 Jul 19;7(29):46315-20.	Original Article
31	Mekaru K, Oishi S, Akamine K, et al.	産婦人科	Spontaneous regression of uterine arteriovenous malformations with conservative management.	Case Reports in Obstetrics and Gynecology. 2017; 6437670. (オンライン)	Case report

32	Nakasone T, Nagai Y, Arakaki Y, et al.	産婦人科	Gestational choriocarcinoma complicated by infective endocarditis during chemotherapy.	Gynecologic Oncology Reports. 2017 Feb 6;20:15-17.	Case report
33	Chinen Y, Kinjo T, Nitta H, et al.	産婦人科	A case of vaginal stillbirth in the presence of placenta previa at 33 weeks of gestation.	Case Reports in Obstetrics and Gynecology. 2016;2016:9872561 (オンライン)	Case report
34	Kudaka W, Inafuku H, Iraha Y, et al.	産婦人科	Low-grade endometrial stromal sarcoma with intravenous and intracardiac extension: a multidisciplinary approach.	Case Reports in Obstetrics and Gynecology. 2016;2016:3467849. (オンライン)	Case report
35	Oishi S, Kudaka W, Toita T, et al.	産婦人科	Prognostic factors and treatment outcome for patients with stage IVB cervical cancer.	Anticancer Research. 2016 Jul;36(7):3471-5.	Original Article
36	Akamine K, Mekaru K, Heshiki C, et al.	産婦人科	Does a vanishing twin affect perinatal outcome?	Journal of Pregnancy and Child Health S1: 001, 2017	Original Article
37	Oishi S, Kudaka W, Toita T, et al.	産婦人科	Stage IVB cervical cancer: performance status and pretreatment WBC count are significant negative prognostic factors.	Atlas of Science <a href="http://atlasofscience.org/">http://atlasofscience.org/</a> in Feb 2017. (オンライン)	Others
38	Chinen Y, Nakamura S, Tamashiro K, et al.	小児科	Isovaleric acidemia: Therapeutic response to supplementation with glycine, L-carnitine, or both in combination and a 10-year follow-up case study.	Molecular Genetics and Metabolism Reports. 2017; 11:2-5	Original Article
39	Chinen Y, Nakamura S, Yoshida T, et al.	小児科	A new mutation found in newborn screening for Fabry disease evaluated by plasma globotriaosylsphingosine levels.	Human Genome Variation. 2017.2;(オンライン)	Original Article
40	Sonosaki T, Miyagi T, Yamaguchi S, et al.	皮膚科	Pediatric case of oral mucous pemphigus complicated by protein-losing gastroenteropathy.	The Journal of Dermatology. 2016 Nov;43(11):1392-1394	Letter
41	Miyazato M, Tohyama K, Touyama M, et al.	腎泌尿器外科	Effect of continuous positive airway pressure on nocturnal urine production in patients with obstructive sleep apnea syndrome.	Neurourology Urodynamics. 2017 Feb; 36(2):376-379.	Original Article
42	Miyazato M, Tana T, Higa A, Wakugami K, et al.	腎泌尿器外科	A questionnaire survey to assess lower urinary tract symptoms in patients with chronic stroke.	Neurourology Urodynamics. 2017 Sep;36(7):1890-1895.	Original Article

43	Miyazato M, Oshiro T, Saito S, et al.	腎泌尿器外科	Effects of switching from alpha-blocker to tadalafil in patients with lower urinary tract symptoms suggestive of benign prostatic hyperplasia (KYU-PRO Study).	Nishinon Journal of Urology. 2016 Aug;78(8):398-405.	Original Article
44	Maeda H, Yamashiro T, Yamashita Y, et al.	耳鼻咽喉科	Lymphoepithelial carcinoma in parotid gland related to EBV infection: a case report.	Auris Nasus Larynx. 2017 Jan 27;S0385-8146(16)30292-9	Case report
45	Hirakawa H, Hanai N, Ozawa T, et al.	耳鼻咽喉科	Prognostic impact of pathological response to neoadjuvant chemotherapy followed by definitive surgery in sinonasal squamous cell carcinoma.	Head Neck. 2016 Apr;38 Suppl 1:E1305-11	Original Article
46	Maeda H, Deng Z, Ikegami T, et al.	耳鼻咽喉科	Branchiogenic carcinoma with high-risk-type human papillomavirus infection: A case report.	Oncology Lett. 2016 Sep;12(3):2087-2091	Original Article
47	Yamashita Y, Uehara T, Hasegawa M, et al.	耳鼻咽喉科	Squamous cell carcinoma antigen as a diagnostic marker of nasal inverted papilloma.	Am J Rhinol Allergy. 2016 Mar-Apr;30(2):122-7	Original Article
48	Sakai H, Yonahara M, Sakai M	眼科	Recurrent Uveal Effusion after Laser Iridotomy.	Case Report in Ophthalmology. 2017 Jan 17;8(1):26-30.	Case report
49	Kondo T, Shinzato H, Koda M	精神科神経科	Diagnostic and therapeutic considerations in depressive mixed state.	Clin Neuropsychopharmacol Ther. 2016 Aug;7:41-47	Review
50	Nakamura A, Mihara K, Nagai G, et al.	精神科神経科	Prediction of optimal dose of lamotrigine for augmentation therapy in treatment-resistant depressive disorder from plasma lamotrigine concentration at week 2.	Ther Drug Monit. 2016 Jun;38(3):379-82	Original Article
51	Nagai G, Mihara K, Nakamura A, et al.	精神科神経科	Prediction of an optimal dose of aripiprazole in the treatment of schizophrenia from plasma concentrations of aripiprazole plus its active metabolite dehydroaripiprazole at week 1.	Ther Drug Monit. 2016;39(1):62-65	Original Article
52	Yakushi T, Kuba T, Nakamoto Y, et al.	精神科神経科	Usefulness of an educational lecture focusing on improvement in public awareness of and attitudes toward depression and its treatments.	BMC Health Serv Res. 2017 Feb 10;17(1):126	Original Article
53	Tsuchiya N, Yamashiro T, Murayama S	放射線科	Decrease of pulmonary blood flow detected by phase contrast MRI is correlated with a decrease in lung volume and increase of lung fibrosis area determined by computed tomography in interstitial lung disease.	European Journal of Radiology. 2016 Sep;85(9):1581-1585.	Original Article

54	Yamashiro T, Moriya H, Tsubakimoto M, et al.	放射線科	Continuous quantitative measurement of the proximal airway dimensions and lung density on four-dimensional dynamic-ventilation CT in smokers.	International Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. 2016 Apr;11(1):755-764.	Original Article
55	Iraha R, Tsuchiya N, Yamashiro T, et al.	放射線科	Reproducibility of pulmonary blood flow measurements by phase-contrast MRI using different 1.5 T MR scanners at two institutions.	Acta Radiologica Open. 2017 Jan(オンライン)	Original Article
56	Heianna J, Muto O, Miyuchi T, et al.	放射線科	Successful treatment continuation with a single mild partial splenic embolization for thrombocytopenia caused by oxaliplatin-based chemotherapy for advanced colon cancer.	Indian Journal of Gastroenterology. 2016 May;35(3):245-247.	Case report
57	Kina S, NAKASONE T, KINJO T	口腔外科	Impact of metronomic neoadjuvant chemotherapy on early tongue cancer.	Cancer Chemotherapy and Pharmacology. 2016;78(4):833-840	Original Article
58	Kina M, Mayuko S, Tanimoto A	口腔外科	Long-term dietary nitrite and nitrate deficiency causes the metabolic syndrome, endothelial dysfunction and cardiovascular death in mice.	Diabetologia. 2017; 60:1138-1151	Original Article
59	Nishihara K, Nakasone T, Matayoshi A	口腔外科	Upper Lip Reconstruction after Oncologic Resection by a Sliding Advancement Cheek Flap with Buccal Mucosal Eversion.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2016;4(11), e1100	Case report
60	Maruyama T, Nakasone T, Matayoshi A	口腔外科	Successful tongue cancer surgery under general anesthesia in a 99-year-old patient in Okinawa, Japan: A case report and review of the literature.	Oncology Letters. 2016 Sep;12(3):1675-1678.	Case report
61	Matsumoto H, Nakachi S, Kosuge N, et al.	病理診断科	Metaplastic carcinoma of the breast with widespread telangiectatic form of osteosarcomatous differentiation.	Pathology International. 2016 Apr;66(4):236-8.	Letter
62	Kawasaki K, Karube K	病理部	Peripheral T-cell lymphoma with EBV-infected "anaplastic" B cell proliferation confined to sinuses.	Blood. 2017 Mar 30;129(13):1885.	Case report
63	Shiohira H, Nakamatsu M, Kise Y, et al.	薬剤部	Long-term treatment of teicoplanin for methicillin-resistant Staphylococcus aureus sternal osteomyelitis with renal impairment: a case of high teicoplanin trough levels maintained by therapeutic drug monitoring.	Yakugaku Zasshi. 2016 Sep;136(9):1313-7.	Case report
64	Sunagawa S, Iha Y, Taira K, et al.	薬剤部	An Epidemiological Analysis of Summer Influenza Epidemics in Okinawa.	Internal Medicine. 2016 Dec;55(24):3579-3584	Original Article

計 64件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。





## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院に おける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shimabukuro A, Kinjo T, Samura H, et al.	第一外科	孤立性子宮頸部転移をきたした盲腸癌の1例.	日本臨床外科学会雑誌 2016 Sep; 77 (9) : 2235-2240.	Case report
2	Irei Y, Kinjo T, Samura H, et al.	第一外科	集学的治療により長期生存が得られたS状結腸癌術後再発の1例.	Ryukyu Medical Journal 2016 Oct; 35(1~4): 57-63.	Case report
3	Hayashi Y, Kinjo T, Nishigaki T, et al.	第一外科	保存的に治療した腸結核による空腸穿孔の1例.	日本臨床外科学会雑誌 2016 Dec; 77(12) : 2954-2958.	Case report
4	Sasaki T, Furugen T, Teruya T, et al.	第二外科	失神発作を契機に発見された心嚢内心膜嚢腫の1例	日本呼吸器外科学会雑誌 2016 Nov; (7) : 811-814	Case report
5	Kanaya F.	整形外科	橈骨遠位端骨折の治療戦略.	大分県整形外科医会誌 2016 Sep; 35: 18-9	Original Article
6	Serikyaku H, Rokkaku T, Oshiro Y, et al.	整形外科	臨床室 観血的穿刺で治療した高齢者ventriculus terminalisの1例.	整形外科 2016 Sep; 67 (10) : 1045-7	Case report
7	Ishihara M, Nakasone S, Yamauchi T, et al.	整形外科	特発性大腿骨頭壊死症に対する人工股関節全置換術の臨床成績.	Hip Joint 2016 Aug; 42(1): 164- 7	Original Article
8	Nakasone S, Ishihara M, Yamauchi T, et al.	整形外科	3D-MRIを用いた大腿骨頭壊死症に対する大腿骨頭回転骨切り術シミュレーション グモの集グラフを用いた三次元術前計画.	Hip Joint 2016 Aug; 42(1): 147-51	Original Article
9	Nakasone S, Yamauchi T, Ishihara M, et al.	整形外科	術後1年でカップの機械的ゆるみを生じたため抜去したMPC処理クロスリンクポリエチレンライナーの解析.	Hip Joint 2016 Aug; 42(2): 935- 40	Case report
10	Nakasone S, Yamauchi T, Ishihara M, et al.	整形外科	三次元CTデータを用いた寛骨臼回転骨切り術前後の寛骨臼の骨性被覆の検討.	整形外科 2016 May; 67(5): 455- 9	Original Article
11	Ishihara M, Nakasone S, Yamauchi T, et al.	整形外科	臨床室 フルポーラスシステムを用いた人工骨頭置換術後にtrunnion wearが疑われた1例.	整形外科 2017 Feb; 68(2): 129- 33	Case report
12	Uchihara C, Ohashi Y, Omura S, et al.	産婦人科	羊水検査所見と組織学的絨毛羊膜炎の検討.	沖縄産科婦人科学会雑誌 2017 Mar; 39: 11-16	Original Article
13	Motomura A, Yara N, Himura M, et al.	産婦人科	向精神薬服用妊婦から出生した新生児の薬物離脱症候群についての検討.	沖縄産科婦人科学会雑誌 2017 Mar; 39: 43-47	Original Article
14	Mekaru K, Gibo K, Nagata C, et al.	産婦人科	沖縄県における若年がん患者に対する妊孕性温存療法の現状.	沖縄産科婦人科学会雑誌 2017 Mar; 39: 61-66	Original Article

15	Kozaki M, Kudaka W, Kimata N, et al.	産婦人科	同時化学放射線療法後の子宮頸部遺残/再発例における化学療法の効果と安全性.	沖縄産科婦人科学会雑誌 2017 Mar; 39: 73-79	Original Article
16	Ueda E, Kimata N, Kozaki M, et al.	産婦人科	当科における高齢婦人科悪性腫瘍患者に対する治療の現状と問題点.	沖縄産科婦人科学会雑誌 2017 Mar; 39: 81-87	Original Article
17	Kimata N, Kudaka W, Ueda E, et al.	産婦人科	子宮体癌におけるリンパ節転移の術前予測に関する検討.	沖縄産科婦人科学会雑誌 2017 Mar; 39: 89-93	Original Article
18	Kanamine C, Imoto S, Nakamura R, et al.	産婦人科	分娩経過中に子宮破裂をきたした1例.	沖縄産科婦人科学会雑誌 2017 Mar; 39: 103-106	Case report
19	Chinen Y, Yoshida T, Yara A, et al.	小児科	沖縄県の新生児マススクリーニングのタンデムマス法導入準備と開始 1年間(2014-2015年)について.	沖縄医学会雑誌 2016 Nov; 55(2)	Original Article
20	Sonosaki T, Okubo Y, Omine T, et al.	皮膚科	マンソン孤虫症の3例 PCR法による原因寄生虫種の同定	西日本皮膚科 2016 Oct; 78: 522-527	Case report
21	Kariya Y, Yamashiro A, Yamaguchi S, et al.	皮膚科	下顎部に生じたNanta骨性母斑の1例 本邦報告例の集計	西日本皮膚科 2016 Oct; 78: 494-499	Case report
22	Yasumura R, Okubo Y, Kawabata Y, et al.	皮膚科	中年女性に生じた後天性結節性裂毛症の1例	西日本皮膚科 2016 Jun; 78: 252-256	Case report
23	Kariya Y, Yamaguchi S, Utsumi D, et al.	皮膚科	デスモグレイン1遺伝子の変異による線状掌蹠角化症の小児例	日本小児皮膚科学会雑誌 2016 Jun; 35: 117-121	Case report
24	Okubo Y, Takahashi K, Uezato H, et al.	皮膚科	子供の皮膚を診る: おむつ皮膚炎	小児内科 2016 Apr; 48: 473-477	Review
25	Takahashi K	皮膚科	子供の皮膚を診る: ジベルバラ色糞糖疹	小児内科 2016 Apr; 48: 503-505	Review
26	Takahashi K, Yamaguchi S	皮膚科	子供の皮膚を診る: 治らないアタマジラミの対処	小児内科 2016 Apr; 48: 567-570	Review
27	Yamaguchi S, Takahashi K, Uezato H, et al.	皮膚科	子供の皮膚を診る: 爪の疾患	小児内科 2016 Apr; 48: 610-617	Review
28	Miyagi T, Takahashi K	皮膚科	子供の皮膚を診る: 全身性疾患による発疹・湿疹・Gianotti症候群	小児内科 2016 Apr; 48: 524-527	Review
29	Miyagi T, Takahashi K	皮膚科	【蕁麻疹の最新知見】アスピリン不耐症と蕁麻疹	アレルギー・免疫 2016 Jun; 23: 960-967	Review

30	Yamashiro T, Maeda H, Matayoshi S, et al.	耳鼻咽喉科	吸気時呼吸困難を呈した代償性舌扁桃肥大例	耳鼻咽喉科臨床 2017 Feb;110(2): 113-117	Case report
31	Yamashiro T, Maeda H, Matayoshi S, et al.	耳鼻咽喉科	頭頸部臓器への同時性多発転移が見られた胃癌の1例	耳鼻と臨床 2017 Jan;63(1): 25-31	Case report
32	Hirakawa H, Suzuki M	耳鼻咽喉科	舌癌に対するセンチネルリンパ節生検の有用性 舌リンパ節の検出例を通して	耳鼻咽喉科臨床 2016 Nov;109(11): 762-763	Case report
33	Kiyuna A, Kise N, Hiratsuka M, et al.	耳鼻咽喉科	健常人の唾液嚥下時における脳活動 functional MRIを用いた検討	耳鼻と臨床 2016 Sep;62(5): 151-158	Original Article
34	Yoza K, Ganaha A, Yonaha A, et al.	耳鼻咽喉科	小児人工内耳術後コミュニケーションモードに影響を与える要因の検討	Audiology Japan 2016 Aug;59(4): 224-231	Original Article
35	Kiyuna A, Kise N, Maeda H, et al.	耳鼻咽喉科	喉頭乳頭腫におけるヒト乳頭腫ウイルス感染と臨床経過	喉頭 2016 Jun;28(1): 24-30	Original Article
36	Maeda H, Toyama M, Agena S, et al.	耳鼻咽喉科	副咽頭間隙に発生した海綿状血管腫の1手術例	頭頸部外科 2016 Jun;26(1): 109-113	Case report
37	Suzuki M	耳鼻咽喉科	痛み・かゆみの科学 痛みの評価	JOHNS 2016 May;32(5): 555-558	Review
38	Suzuki M, Yamashiro T, Matayoshi S	耳鼻咽喉科	耳・鼻・喉の感染症/炎症《口腔・咽頭・唾液腺》 難治性口腔咽頭潰瘍	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2016 Apr;88(5): 126-129	Review
39	Sakai H, Yonahara M, Arakaki Y, et al.	眼科	原発閉塞隅角合併白内障手術に対する水晶体再建術の術前、術中、術後合併症.	あたらしい眼科 2017 Feb; 34(2): 292-295	Original Article
40	Koto M, Yonahara M, Arakaki Y, et al.	眼科	眼内レンズ挿入後5年目に落屑症候群を発症した1例.	あたらしい眼科 2017 Feb; (0910-1810) 34(2): 288-291	Case report
41	Kakinohana T, Heianna J, Toita T, et al.	放射線科	放射線診療部門におけるインシデント報告の解析	医療と安全 2016 May;5:4-12	Original Article
42	Hina T, Fuchigami T, Madanbashi Y, et al.	麻酔科	開頭術後人工呼吸中の動脈血二酸化炭素分圧管理において INTELLiVENT®-ASVが有用だった1例	日本臨床麻酔学会誌 2016 Sep;4:425-8	Case report
43	Nakasone T, Matayoshi A, Makishi S	口腔外科	A case of massive macroglossia caused by senile systemic amyloidosis	日本口腔外科学会雑誌 2016 Jun; 62(6):304-308	Case report
44	Matayoshi A, Nakasone T, Maruyama T	口腔外科	A case of oral florid papillomatosis that markedly responded to preoperative chemotherapy	日本口腔外科学会雑誌 2016 Nov; 62(11):566-569	Case report

45	Tamaki T, Morello AM, Saio S, et al.	病理診断科	横隔転移を機にTTF-1陽性小細胞癌の併存が確認された子宮体部類内膜癌の1例	診断病理 2016 Oct; 33(4):306-312	Case report
46	Koyama H, Matsuzaki A, Kuniyoshi S, et al.	病理診断科	下顎骨に発生した原発性骨内扁平上皮癌の1例	診断病理 2016 Oct; 33(4):313-319	Case report
47	Tome Y, Kanaya F, Kohshi K, et al.	高気圧治療部	急性外傷性血流障害（挫滅症候群またはコンパートメント症候群）	日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2016; 51:128-130	Others
48	Kohshi K, Tamaki H, Okudera T, et al.	高気圧治療部	素潜りダイバーでの神経放射線学的検討	日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2016; 51:77-82	Others
49	Kohshi K	高気圧治療部	低酸素脳症	日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2016; 51:67-68	Others
50	Tome Y, Suzuki K, Kohshi K, et al.	高気圧治療部	難治性潰瘍（糖尿病，動脈または静脈性血流障害）	日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2016; 51:63-66	Others
51	Yamada S, Isagawa S, Higa A, et al.	薬剤部	授乳婦に対する薬物治療の実態調査.	日本病院薬剤師会雑誌 2016 Sep;52:1153 - 1158	Original Article
52	Shiohira H, Nakamatsu M, Maeshiro S, et al.	薬剤部	手指消毒薬使用量を用いた感染対策チーム介入による院内感染対策の評価.	日本病院薬剤師会雑誌 2016 Aug;52:1039-1042	Original Article

計 52件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲, 学長・研究者等・研究代表者の責務, 倫理審査委員会の役割・責務, IC, 個人情報 情報の保護, 重篤な有害事象への対応, モニタリング及び監査 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 目的, マネジメント委員会の設置, 利益相反アドバイザー・利益相反カウンセラーの設置, 利益相反マネジメントの手続き, 外部からの指摘への対応, 秘密の保持 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容 学外機関の臨床研究センター等から講師を招聘, または, 学内の臨床研究教育管理センター 教員を講師として, 臨床研究の基本と研究倫理及び倫理指針等について講義を行っている。 臨床研究を実施する研究者(学生含む)は, 講習会の受講を必須としている。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【主な研修内容】

HIV患者の診療、及び臨床研究  
重症大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁留置術  
心臓血管外科専門医研修  
先天性橈尺骨癒合症に対する授動術  
各種膠原病への免疫抑制療法の実践  
顎顔面口腔領域の再建手技研修会

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	412.42人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
藤田 次郎	第一内科	教授	36年	
外間 昭	光学医療診療部	部長	29年	
益崎 裕章	第二内科	教授	25年	
森島 聡子	第二内科	准教授	22年	
岩淵 成志	第三内科	准教授	31年	
古波蔵 健太郎	第三内科	准教授	24年	
大屋 祐輔	第三内科	教授	35年	
崎間 洋邦	第三内科	助教	14年	
池宮城 秀一	第三内科	助教	14年	
新里 朋子	第三内科	特命助教	18年	
國吉 幸男	第二外科	教授	36年	
照屋 孝夫	第二外科	助教	23年	
仲栄真 盛保	第二外科	助教	21年	
永野 貴昭	第二外科	助教	22年	
石内 勝吾	脳神経外科	教授	32年	
金谷 文則	整形外科	教授	39年	
普天間 朝上	整形外科	助教	39年	
六角 高祥	整形外科	助教	21年	
前原 博樹	整形外科	講師	20年	
神谷 武士	整形外科	講師	18年	
仲宗根 哲	整形外科	講師	17年	
青木 陽一	産科婦人科	教授	33年	
百名 伸之	小児科	講師	31年	
知念 安紹	小児科	准教授	25年	
吉田 朝秀	周産母子センター	講師	21年	
金城 紀子	小児科	助教	29年	

高橋 健造	皮膚科	教授	31年
山口 さやか	皮膚科	講師	13年
宮城 拓也	皮膚科	講師	10年
新嘉喜 長	皮膚科	助教	13年
眞鳥 繁隆	皮膚科	助教	12年
斎藤 誠一	腎泌尿器外科	教授	33年
宮里 実	腎泌尿器外科	准教授	23年
安次嶺 聡	腎泌尿器外科	講師	19年
鈴木 幹男	耳鼻咽喉科	教授	31年
酒井 寛	眼科	准教授	24年
近藤 毅	精神科神経科	教授	34年
村山 貞之	放射線科	教授	37年
垣花 学	麻酔科	教授	26年
渕上 竜也	麻酔科	診療准教授	23年
西 啓亨	麻酔科	助教	14年
中村 清哉	麻酔科	准教授	24年
新崎 章	歯科口腔外科	教授	34年
吉見 直己	病理診断科	教授	34年
清水 雄介	形成外科	特命教授	18年
久木田 一朗	救急部	部長	30年
			年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul> <p>【看護部】</p> <p>教育理念・教育方針のもと、毎年院内教育計画を策定し、別紙（1）のとおり実施している。</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。



## 看護部院内研修実施内容一覧(平成28年度)

## (1) クリニカルラダーレベルI 対象

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	新規採用者オリエンテーション	・病院組織・理念・方針 ・医療倫理のA, B, C ・感染対策の基本 ・医療機器安全管理 ・医療安全の基本 ・患者中心の医療及び患者の権利 ・職場におけるメンタルヘルス ・接遇の基本・応用DVD ・サービスと倫理 ・諸手続き	4/1	1日	63人
2	新規採用者オリエンテーション	・看護部組織・方針・目標・社会人の心得・組織の一員としての心得と役割 ・病院・看護部の組織について ・関連部署訪問 ・リーム医療の一員としての役割や連携	4/4	1日	59人
3	新規採用者オリエンテーション	・看護部運営方針	4/4	60分	79人
4	新規採用者オリエンテーション	院内教育計画について ・新人看護師育成プログラム ・クリニカル・ラダー ・プリセプターシップ	4/5	90分	59人
5	新規採用者オリエンテーション	・看護記録基準 ・看護記録 ・服装基準 ・身だしなみマナー	4/5	30分	59人
6	新規採用者オリエンテーション	・勤務管理・労務管理 ・人事入力方法 ・看護師免許証登録と取り扱い	4/5	60分	59人
7	感染管理I 標準予防策①②	演習 ・標準予防策について ・経路別予防策について ・院内感染対策について学ぶ ・スタンダードプリコーション	4/6	150分	63人
8	看護の安全	・リスクマネジメントについて 5Rの確認 ・インシデントの対応	4/6	120分	59人
9	保全防災①②③	①消火器の取り扱い(消火器・消火栓) ②避難訓練 (院内防火について 発生時の初期対応) ③消防訓練	①7/5 7/29 ②9/16 ③10/20	①60分 ②60分 ③60分	①38人 21人 ②91人 ③63人
10	接遇I	日常生活における作法や接遇の基本について学ぶ	4/15	120分	75人
11	接遇II 組織人としての対応 マナー	医療現場における接遇の重要性と対応の基本、チーム対応について学ぶ	11/10	120分	51人
12	BLS研修	成人の心肺蘇生法(胸骨圧迫・人工呼吸) AEDの使用法、実際の場面を想定した実技演習	5/13	45分	57人
13	コミュニケーション スキル	関わり方を深めるためのコミュニケーション技術・ロールプレイ	5/17	120分	58人
14	基礎看護技術 ①酸素療法	酸素療法の実際、酸素療法の目的に応じた必要物品の準備、手順・観察のポイント	7/12	120分	58人
15	基礎看護技術 ②気管内吸引	気管内吸引の実際、目的、必要物品の準備、手技、留意点、片づけ	9/23	120分	53人
16	基礎看護技術 ③エンゼルケア	エンゼルケアの意義と実際(エンゼルメイク、シャワー、更衣、家族への配慮、グリーフケア)	10/18	120分	59人
17	基礎看護技術⑤	必要物品と使い方、救急カートの内容と使用方法、気	4/26	90分	50人

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
	気管内挿管介助	管内挿管介助の実際を学ぶ			
18	看護診断 (初級)	看護過程とは 看護診断とは 電子カルテによる看護診断の活用 NANDA-I について	6/11	1日	74人
19	手術室における挿管 介助見学	必要物品の確認、気管内挿管介助の実際(声かけ、医師との連携・タイミングの取り方など)	6月～11月	120分	50人
20	材料部実習	医療材料の再生処理・滅菌・供給システムの実際	9月～12月	120分	58人
21	新採用者リフレッシュ研修	自己のナラティブのまとめとリフレッシュ	10/28	1日	48人
22	インスリンの基礎知識	インスリンの種類、作用、副作用、機材等の知識と情報、インスリンに対するインシデント事例と対策	5/20	120分	63人

## (2) クリニカルリーダーレベルⅡ 対象

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	救急看護	救命処置の実技、リーダーシップ、事例を想定した救急への対応について学ぶ	7/5	120分	36人
2	重症患者ケア 呼吸管理①②	クリティカルな状況での呼吸管理、体位ドレナージ、口腔ケアの意義、合併症予防について学ぶ	①9/9 ②10/11	①90分 ②90分	①33人 ②25人
3	重症患者ケア③ 循環管理	クリティカルな状況での循環管理について学ぶ	12/13	90分	34人
4	重症患者ケア④ 栄養管理	重症患者における栄養と代謝の基礎知識について学ぶ	1/17	90分	36人
5	新プリセプター 研修①②	自己の看護実践のリフレクション 対象者の理解、指導の進め方、仕事を任せる時の留意点について(プリセプターシップ)	3/7	半日	62人
6	看護研究①	研究計画書のプレゼンテーション 倫理審査委員会への申請について	6/17	120分	64人
7	看護研究②	中間報告会	10/21	120分	66人
8	看護研究③	プレゼンテーション:スライドの作り方、発表原稿の作り方、発表のポイント	12/16	120分	35人
9	看護師長のための 看護管理研修	想いを伝えられる管理者になれる	12/3	1日	29人
10	リーダー育成研修 ①②	リーダーに求められる人間的資質、チームを動かす3つの機能、新しいリーダーシップの考え方、コミュニケーションの取り方、リーダーシップリフレクション	12/2	1日	43人
11	レベルⅡ看護診断 事例検討会	事例レポートの振り返り、看護展開(目標立案・診断・評価)のまとめ方	6/10	1日	35人
12	論理的な文章の 書き方	文章の書き方について基本を理解し、実践に役立つ文章作成を学ぶ	7/8	120分	32人

## (3) クリニカルリーダーレベルⅢ 対象

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	アドボカシーを 育む①基礎編 ②アドバンス編	看護職と倫理、倫理の原則、倫理問題に対する対応 臨床現場での倫理的問題、事例分析について学ぶ	①9/15 ②10/27	①120分 ②120分	①28人② 28人
2	指導者育成研修 ①教育に関する 基礎知識	成人のための学習、動機付け 看護教育方法、教育評価	6/15	90分	26人
3	指導者育成研修 ②シミュレーション教育	シミュレーション教育とは、シミュレーションの実際、デブリーフィング、 指導者の役割について学ぶ	6/29	90分	24人
4	指導者育成研修 ③シナリオ作成 と実施	部署内で活用できるシミュレーション研修のシナリオ作りを 学ぶ	12/14	120分	9人
5	看護管理Ⅱ① 看護管理概論	看護管理とは、マネジメントの基本、PDCA サイクル、 管理者に求められる能力	6/30	120分	9人

	研修名	研修内容	開催期日	時 間	受講者数
6	看護管理Ⅱ②	マトリックス図法による問題解決技法を学ぶ	7/22	120分	9人
7	看護管理Ⅱ③	問題解決技法で、部署の問題解決に向けて取り組む	10/24	120分	8人
8	看護管理Ⅱ④	自己の課題の実践状況をまとめ発表する	11/17	120分	21人
9	勤務計画表作成	勤務管理表作成の留意点と実際(計画から実績まで)11月分の勤務計画表を作成する	10/19	60分	17人

#### (4) 全看護職員 対象

	研修名	研修内容	開催期日	時 間	受講者数
1	看護診断特別講義(中級)	アセスメントから看護診断、理論背景や用語・概念の理解(自己概念・役割関係・ストレスコーピング・スピリチュアリティ、その他)	10/15	1日	68人
2	看護診断特別講義(上級)	看護診断教育に役立つ知識・技術、看護診断のポイント、看護診断の開発・検証・研究について学ぶ	1/28	1日	66人
3	看護診断指導者育成研修②事例検討会	受け持ち患者の看護診断プロセス(診断指標(危険因子)・関連因子・目標・計画・評価)の検討	10/14	1日	27人
4	管理者のための看護診断事例検討会	受け持ち患者の事例を用いて、情報の整理と看護診断・看護計画の立案について学ぶ	10/13	半日	25人
5	ゴードンの機能的健康パターン	情報の整理と看護診断・看護計画の立案について学ぶ	10/13	半日	40人
6	深部静脈血栓症の予防	血栓の発生機序と予防方法、末梢循環動態の観察、ストッキングの正しい履かせ方について学ぶ	11/22	90分	23人
7	アサーティブコミュニケーション	アサーティブのとは、自己のコミュニケーションタイプ、アサーティブな自己表現について学ぶ	5/31	90分	41人
8	BLS研修	急変時の初期対応ができる 成人の心肺蘇生法 AED使用方法	5/13	45分	57人

#### (5) 院内認定研修(静脈注射教育プログラム 平成26年度改訂)

	研修名	研修内容	開催期日	時 間	受講者数
1	静脈注射(基礎コース)①	治療方針の理解、安全(誤薬予防)に実施するための与薬の原則(5Rの徹底)	4/22	60分	76人
2	静脈注射(基礎コース)②	清潔操作、安全機材の取り扱い、針廃棄について学ぶ	4/22	60分	76人
3	静脈注射(基礎コース)③	看護師が行う静脈注射実施範囲、静脈注射の法的位置づけと看護師の責務、静脈注射の用語について学ぶ	5/24	30分	68人
4	静脈注射(基礎コース)④	静脈注射を安全に実施するための解剖と生理、静脈注射の合併症とその対策	5/24	90分	69人
5	静脈注射(基礎コース)⑤	静脈注射を安全に実施するための薬剤知識、薬剤の保管・管理について学ぶ	6/14	60分	68人
6	静脈注射(基礎コース)⑥	輸液ポンプ、シリンジポンプの特徴と使用方法、アラームの対応、後片付けについて学ぶ	6/14	60分	69人
7	静脈注射(指導者コース)①	適切な静脈栄養管理と栄養輸液の種類について学ぶ	9/6	60分	34人
8	静脈注射(指導者コース)②	緊急輸血、生物学的製剤の取り扱いについて学ぶ	9/6	30分	34人
9	静脈注射(指導者コース)③	有害事象の予防と対策について学ぶ	10/25	60分	30人
10	静脈注射(指導者コース)④	循環作動薬、ショックバイタル時の輸液管理及びハイリスク薬剤について学ぶ	10/25	60分	30人
11	静脈注射(指導者コース)⑤	CVポートの管理について学ぶ	11/25	60分	27人

#### (6) 皮膚・排泄ケアスキルアップ研修(院内認定)

	研修名	研修内容	開催期日	時 間	受講者数
--	-----	------	------	-----	------

1	スキンケア①②	スキンケアの基礎知識	①4/8 ②6/21	①90分 ②60分	57人 58人
2	創傷(褥瘡)ケア①②	創傷・褥瘡ケアと治癒過程について学ぶ	①1/21 ②7/19	①60分 ②90分	25人 19人
3	ストマケア①②	ストマケアの基礎について学ぶ	①11/11 ②12/9	①90分 ②60分	15人 13人
4	創傷・オストミーケア①②	創傷・オストミーのアセスメント・ケア・治療材料、臨床実践支援ナース院内プログラムについて学ぶ	①12/19 ②1/20	①90分 ②90分	22人 12人
5	WOC研修生によるインサートビス	皮膚を知り、おむつの使い方がわかる	11/21	70分	20人

### (7) 感染対策スキルアップ研修 (院内認定)

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	標準予防策①	標準予防策・環境整備について学ぶ	7/11	120分	17人
2	第3回医療関連感染サーベイランス報告会	血流感染、VAE、手術部位感染、針刺し防止	11/4	180分	55人
3	看護ケアと感染防止1(人工呼吸器・血流感染)	尿路感染、手術部位感染の感染経路と感染防止対策について学ぶ	9/12	60分	16人
4	看護ケアと感染防止2(尿路感染・手術部位感染防止対策)	手術部位感染の感染経路と感染防止対策について学ぶ	9/12	60分	16人
5	看護ケアに必要な消毒薬の基礎、洗浄・消毒の方法	消毒薬の基礎知識、病棟で使用している物品の洗浄・消毒の方法について、滅菌物の取扱いについて学ぶ	10/7	90分	20人
6	感染管理のペットコントロール	感染管理に必要なペットコントロールについて学ぶ	11/14	90分	21人
7	微生物検査と結果の見方	検体の採取方法、検査結果の見方 院内で問題となる微生物について学ぶ	12/12	90分	15人
8	職業感染防止対策	職業感染防止対策：結核、流行性ウイルス疾患、血液曝露について学ぶ	1/6	90分	10人

### (8) がん看護スキルアップ研修 (院内認定)

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	がん看護論 がん看護ははじめの一步	1.がん患者・家族の特徴 2.がん看護の概念・理論	4/5	60分	18人
2	がん患者・家族とのコミュニケーション	1.コミュニケーションに影響を及ぼす要因 2.がん患者・家族とのコミュニケーションスキル	5/2	60分	27人
3	がん患者・家族への意思決定支援	1.がん患者に特徴的な意思決定場面とプロセス 2.意思決定に関連した患者・家族のアセスメント 3.意思決定支援における看護師の役割	6/6	90分	30人
4	がん看護に伴う副作用症状マネジメントとセルフケア支援	1.化学療法に伴う副作用症状 2.疼痛緩和に用いる薬物療法及び看護ケア	7/4	90分	28人
5	がん放射線療法を受ける患者への看護	1.放射線療法の特徴、目的、方法、流れ 2.放射線防護・放射線治療の看護の要点 3.放射線療法を受ける患者の有害事象と不安のケア 4.緩和療法目的の放射線療法看護事例検討	12/5	90分	13人
6	痛み以外の症状マネジメント	1.痛み以外の症状の治療・ケア 2.症状マネジメントにおける看護師の役割	11/7	90分	19人
7	看取りのケア	1.臨死期にある患者・家族のニーズと必要なケア 2.看取りの時の対応と留意点	3/6	90分	21人

### (9) 発表会

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
--	-----	------	------	----	------

1	パルII事例発表会	受け持ち患者の看護をまとめ、発表する	①10/14 ②10/17	①120分 ②150分	53人 50人
2	院内看護研究発表会（示説）	看護研究発表及び実践報告	2/10	120分	118人
3	院内看護研究発表会（口演）	看護研究発表及び実践報告	3/10	120分	96人

### (10) 役割別研修

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	看護診断指導者育成研修 事例検討会	受け持ち看護師の看護診断プロセス（診断指標（危険因子）・関連因子・目標・計画・評価）の整合性を確認する	6/12	1日	66人
2	看護師長・副師長合同研修	組織分析、次年度の目標設定	3/11	半日	86人
3	看護師長・副師長研修	やる気のある人材づくり へたれぬ音階づくり	5/27	1日	71人

### (11) 専門・認定看護師委員会研修：慢性疾患患者のフィジカルアセスメント

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	糖尿病合併症の病期に応じた療養支援 ①神経障害、網膜症	神経障害、網膜症の状態に応じた症状マネジメント、生活調整と療養支援について学ぶ	7/21	90分	5人
2	糖尿病合併症の病期に応じた療養支援 ②大血管障害、腎症	大血管障害、腎症の状態に応じた症状マネジメント、生活調整と療養支援について学ぶ	9/8	90分	15人
3	フィジカルアセスメント（呼吸）	呼吸状態悪化時のアセスメント：問診、視診、聴診、（打診）	11/29	120分	23人
4	視て触れて聴いて！心不全急性増悪時のフィジカルアセスメント（循環）	心不全増悪時の循環動態・症状アセスメント：問診、視診、聴診、触診	12/15	90分	15人
5	慢性心不全患者の看護支援技術（セルフモニタリング）	慢性心不全患者の急性増悪時の兆候の早期発見と早期対処のためのアセスメント、セルフモニタリング自術について学ぶ	1/12	90分	8人
6	臨床で困らないための糖尿病注射療法の基礎	インスリンとGLP-1製剤について 注射の種類と効き方、副作用と対応方法	11/1	60分	15人

### (12) 退院支援スキルアップ研修

	研修名	研修内容	開催期日	時間	受講者数
1	退院支援 ステップⅠ	・在宅療養を支える看護職の役割 ・早期退院支援スクリーニングとアセスメント ・退院支援計画書の作成 ・患者・家族と退院支援の必要性を共有する	4/27	60分	50人
2	退院支援 ステップⅡ①	・患者・家族の意思決定のプロセス ・患者再評価の原点（3タイプ）	7/26	90分	55人
3	退院支援 ステップⅡ②	・事例検討（例：難渋した事例）	9/28	60分	52人





(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	藤田 次郎
管理担当者氏名	総務課長 金城邦光、医療支援課長 金城不二子、検査・輸血部 前田士郎、手術部 鈴木幹男、放射線部長 村山貞之、安全管理対策室 大屋祐輔、ME機器センター 久木田一朗、薬剤部長 中村克徳、看護部長 大嶺千代美

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課、薬剤部、システム管理室、診療情報管理センター、放射線部、医療支援課	各診療日誌は院内情報システム上で共有し一定期間づつ印刷し綴っている。看護記録は、電子カルテを原本とし、紙ベースの記録は全てスキャンし、電子カルテ内へ保管している。診療科は入院、外来別に1患者1ファイル方式で中央管理。X線写真はデジタル化後、放射線部サーバーで保管管理し、出力画像は各診療科保存。処方箋は、外来は1週間単位、入院は病棟単位で綴り、薬剤部で保管。診療録を病院外に持ち出すことは『琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項』で禁止している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書				
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
		高度の医療の提供の実績	医療支援課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部事務部 各診療科	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療支援課 薬剤部	
	規則第十一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理対策室	各課・診療科・関連部署で適切に管理している。
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		安全管理対策室		

	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理対策室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
	規則第一一条の十一	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
	規則第一一条の十一	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
	規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
	規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	医薬品安全管理責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における医薬品安全管理実施要項
	規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	医療機器安全管理責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における医療機器安全管理実施要項
	規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター	
規則第二項第一号から第三号までに掲げる事項	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター	

各課・診療科・関連部署  
で適切に管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における医療に関する安全管理規程
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	琉球大学医学部附属病院における感染対策取扱要項
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	琉球大学医学部附属病院診療情報管理センターにおける診療記録管理運用要項
		医療安全管理部門の設置状況	琉球大学医学部附属病院における医療に関する安全管理規程
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	琉球大学医学部附属病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	琉球大学医学部附属病院高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程
		監査委員会の設置状況	国立大学法人琉球大学医療安全監査規程
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	琉球大学医学部附属病院における医療事故等並びに死亡事例発生時の報告取扱要項
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	安全管理対策室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	琉球大学医学部附属病院医療安全相談窓口運営要項
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	琉球大学医学部附属病院における医療安全管理の適正な実施の疑義に関する情報提供に関する取扱細則
職員研修の実施状況	安全管理対策室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課、安全管理対策室、薬剤部、ME機器センター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理

方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	附属病院長 藤田 次郎	
閲覧担当者氏名	総務課長 金城 邦光	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 2階 小会議室	
閲覧の手続の概要		
閲覧の求めがあった場合、閲覧対応者が個別に対応する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 本院における安全管理に関する基本的な考え方</li><li>② 医療に係る安全管理のための組織に関する基本的事項</li><li>③ 医療に係る安全管理のための研修等に関する基本方針</li><li>④ 本院における医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>⑤ 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li><li>⑥ 患者等に対する当核指針の閲覧に関する基本方針</li><li>⑦ 患者等からの相談への対応等に関する基本方針</li><li>⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ( 有・無 )</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 安全管理の対策及び教育に関すること</li><li>(2) インシデント又は医療事故の判定に関すること</li><li>(3) リスクマネジメント・マニュアルに関すること</li><li>(4) 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること</li><li>(5) 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること</li><li>(6) 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること</li><li>(7) 医事紛争が生じたときの拡大防止に関すること</li><li>(8) 訴提が提起されたときの対策に関すること</li><li>(9) 関係機関等への報告に関すること</li><li>(10) その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【指針テスト】平成28年5月27日 「医療安全に係る安全管理のための指針」</p> <p>【第1回】平成28年6月27日・8月29日 「医療事故からの学び」 講師：永井 弥生 (群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部長)</p> <p>【第2回】平成28年11月1日・2日 「チーム STEPPS研修」 講師：菊地 龍明 (横浜市立大学附属病院 病院長補佐 医療安全・医療管理学 准教授)</p> <p>【第3回】平成28年12月9日・20日・1月12日 「医療安全行動の推進に向けて」 講師：外間 惟夫 (琉球大学医学部附属病院 薬剤部副部長) 椿本 真穂 (放射線科 助教) 西山 毅 (琉球大学医学部附属病院 臨床工学技長)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p>	

- ① インシデントレポートやRMから直接または紙面による報告
- ② GRM、分析担当者、病院管理者による院内巡視
- ③ 当核部署及び関連部署からの聴取、カルテレビュー
- ④ 部門のミーティング等に参加
- ⑤ アンケート調査
- ⑥ 報道事例を基に、院内の現状把握と職員への周知
- ⑦ 委員会等（看護師長会、安全RN委員会）参加

(注) 前年度の実績を記入すること。



(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>② 感染対策委員会の設置</li><li>③ 感染対策室および感染対策実務者会議の設置</li><li>④ 職員研修について</li><li>⑤ 院内感染発生状況の把握と報告</li><li>⑥ 院内感染発生時の対応</li><li>⑦ 院内感染対策指針の閲覧に関する対応</li><li>⑧ 院内感染対策の推進</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回 (臨時 1 回を含む)
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 感染対策マニュアルの改訂・作成に関すること</li><li>② 耐性菌発生状況および対策に関すること</li><li>③ 希な耐性菌発生時の保健所との連携や報道に関すること</li><li>④ アウトブレイクの報告と対策に関すること</li><li>⑤ 感染対策研修会に関すること</li><li>⑥ ワクチン接種事業</li><li>⑦ 抗体価測定事業</li><li>⑧ 抗菌薬使用状況</li><li>⑨ 血液培養陽性例の発生状況に関すること</li><li>⑩ 国公立感染対策協議会からの情報報告</li><li>⑪ 地域連携施設との相互チェック結果と改善内容に関すること</li><li>⑫ インフルエンザ発生状況に関すること</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①開催日：2016年5月23日 研修会名：手指衛生、針刺し対応、指針のテスト 参加人数：1,489人</li><li>②開催日：2016年10月20日 研修会名：血液培養採取結果と新しい敗血症ガイドライン、患者の異常を早期に察知するために 参加人数：1,015人</li><li>③開催日：2017年2月27日 研修会名：針刺し対応フローチャート改訂とエピネット入力方法について 参加人数：686人</li></ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 毎週ICTミーティングを開催し、耐性菌発生の状況や現在実施している感染対策に関する情報をICTで共有を行っている。</li></ol>	

- ② ICTメンバーで、アウトブレイクの情報と対策の状況について確認を行う。
- ③ 感染管理認定看護師にて日々の耐性菌分離状況を確認し、経路別予防策について病棟と情報共有を図っている。
- ④ 抗菌薬ラウンドをICDと薬剤師で実施し、抗菌薬適正使用に向けて活動を行っている。
- ⑤ 血液培養陽性例を確認し、他診療科医師と抗菌薬使用に関して助言を行っている。
- ⑥ 毎週1回 ICTにて病棟ラウンドや中央部門などのラウンドを実施し、環境対策について確認と指導を行っている。
- ⑦ 職業感染防止対策として、針刺し対応を行っている。
- ⑧ 手指衛生実施状況のサーベイランスを行っている。
- ⑨ SSI、CLABSI、VAEサーベイランスを実施している。
- ⑩ 感染対策の為に器機導入について検討を図る。
- ⑪ N95マスクフィットテストを結核患者をみる職員に実施している。
- ⑫ 保健所からの耐性菌、ウイルス発生状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 第1回 医薬品安全職員研修会 (合同) 日 時：平成28年6月27日 (月) 17:30～18:30 場 所：臨床講義棟2F大講義室、1F小講義室、 テーマ：「医療事故からの学び～医療者に求められること」 講 師：群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部長 永井 弥生 先生 対 象：全職員 *ビデオ追加研修会 (6月29日、30日) 参加延人数：1,378名</p> <p>2. 第2回医薬品安全職員研修会 (合同) 日 時：平成28年11月1日 (火) 16:00～17:30、1月2日 (水) 14:00～15:30、17:00～18:30 テーマ：「チームSTEPPS研修」 講 師：横浜市立大学附属病院 医療安全・医療管理学 菊池 龍明 先生 対 象：全職員 参加延人数：355人</p> <p>3. 第3回医薬品安全職員研修会 (合同) 日 時：平成28年12月9日 (金) 17:30～18:30 場 所：臨床講義棟2F大講義室、1F小講義室、 テーマと講師： ①外間 惟夫「医薬品安全使用の基本について」(薬剤部副薬剤部長) ②椿本 真穂「単純写真でみる胸部静脈の走行」(放射線科助教) ③西山 毅「人工呼吸管理中の注意点」(臨床工学技士長) 対 象：全職員*ビデオ追加研修 (12月20日、1月12日)、参加延人数：1,225名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)・無 )</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>特定機能病院の認定要件である「医薬品情報の整理・周知及び周知状況の確認の徹底、並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認及び必要な指導(経過措置；H28.9まで)」への対応のため、業務手順書の一部を下記のように改定した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・第6章 外来患者への医薬品使用 疑義照会 処方せんの記載内容を確認し、特に投与禁忌、適応外使用等に留意する。</li><li>・第9章 抗がん剤血管外漏出時の処置・対応例</li><li>・第10章 医薬品の情報収集・管理・提供 医薬品情報の提供・周知と周知状況の確認実施を徹底する。</li></ul> <p>手順書に基づく業務の実施状況の確認は、病棟担当薬剤師が病棟を巡回した際に確認している。また平成28年6月中旬に全病棟、診療科を対象に「医薬品の安全使用のための業務手順書」に基づいた業務の実施確認を、チェックリストを用いて行った。結果は全般的に良好で業務手順書通りの業務実施が確認された。また一部に問題のあった病棟は、病棟担当薬剤師と協力して指導を行った。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 )</p>	

医薬品情報の収集は、主に医薬品担当薬剤主任が、PMDA、厚生省、製薬会社等のHPや、MRからの通知文書や学会等の各種ガイドライン等から、また電子カルテ内の医薬品情報システムJUS-DIからも収集している。処方に係る禁忌や適用外についての情報は、調剤時および病棟薬剤業務時に処方医に疑義照会し、その内容、結果を記録し、収集・分析している。収集した情報はD I ニュースとして定期的に病棟、診療科に周知し、さらに周知確認を実施している。

・ その他の改善のための方策の主な内容：

1) 病棟での医薬品の管理状況チェック（臨時点検）について

平成28年9月に横浜市で発生した界面活性剤の点滴混入事件等の注射剤関連の報道事例を受けて、病棟内での医薬品の管理について薬剤部・医療安全と共同で臨時点検を10月27日に実施した。点検項目は従来の麻薬・向精神薬・毒薬・救急カートの管理に加えて、定数薬や筋弛緩薬、また薬剤部から人力搬送される注射剤定期カートの置き場所や鍵管理について実施した。結果概要は以下のとおりである。

- ・ 麻薬・向精神薬・毒薬・救急カートについては、鍵管理、表示、帳簿など管理はおおむね良好であった。筋弛緩剤も管理は適正であった。
- ・ 注射薬定期カートは多くの病棟がナースステーション内に保管、また混注前や混注後の注射剤も混注台など所定の場所に保管しており、部外者がアクセス可能な場所には置かないよう注意していた。
- ・ 注射薬定期カートの鍵の保管場所は問題ないが、開錠後は殆どの病棟で返却時まで施錠することはなかった。必要ない時間は施錠が望まれる。
- ・ 注射剤の中止・返却も翌日には薬剤部に返却されていた。その際、混注ロシールの剥がれなどもチェックしている病棟も一部あった。しかし内服薬の返却は不定期であり、早めの返却が望ましい。

2) カルベジロール錠の規格違いインシデントへの対応

昨年、薬剤部調剤室において規格違いの薬剤を調剤した。降圧薬であるカルベジロール2.5mg錠朝2.5錠、夕2錠の処方に対し、規格違いの10mg錠で調剤、また薬袋表示は2.5mg錠の印字であった。監査者も規格違いを見逃し病棟に交付・配薬され朝の1回分（25mgで処方量の4倍）を患者が服用した。夕方の配薬時に看護師が気づき薬剤部へ連絡し正しい薬剤と交換、経過観察となった。本事例の対策として以下を実施し、医療安全管理委員会へ平成28年8月4日にインシデント対策報告書を提出した。

①カルベジロールの薬剤棚に規格違いの注意を促すシールを表示した。

②棚の配置場所を10mgと2.5mgで間違いとした。

③システム上の対策を検討し、規格違いがある薬剤は処方件数が少ない規格の薬剤名をオレンジ色で表示する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年85回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器、血液浄化装置、保育器、人工心肺装置、PCPS、除細動器、輸液ポンプ シリンジポンプ及び新規導入機器について取り扱い説明研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： ME機器管理システムACEにて管理、院内で臨床工学室が管理している機器を医療機器安全専門 委員会で決定し、日常点検、使用中点検、定期点検を実施している。また臨床工学室で対応でき ない機器に関してはメーカー保守点検契約を結び対応。(メーカー対応機種 麻酔器、人工心肺装置、 放射線関連機器)	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDA、各種学会からの情報、メーカーからの不具合情報をMEセンターで収集し、臨床工学室で 共有、情報は該当機種か判断し、各部署に周知徹底している。 重要事項においては、病院長に報告し各部署に再通知後必要な時に再研修や院内回覧し全職員 に周知している。 診療に支障が出ない範囲で院内使用機器の統一化を図り、取り扱い方法の煩雑化を減らし、 ME機器使用の安全性を高めるように、臨床工学室で取り組んでいる。 毎月 1 回医療機器安全管理専門委員会にて、インシデント及びアクシデント点検修理状況、 機器情報を周知し、各部門が集まり対策を図っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	①・無
<p>・責任者の資格 (医師) 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>既存の「医療に関する安全管理規程」の一部改正により、医療安全管理責任者を配置した。今後、適正な医療全般の安全管理体制を推進する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② (3名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報の収集は、主に医薬品担当薬剤主任がPMDA、厚労省、製薬会社等のHPや、MRからの通知文書、学会等の各種ガイドライン等から、また電子カルテ内の医薬品情報システムJUS-DIからも収集・整理している。収集した各情報はD I ニュースとして定期的に病棟、診療科に周知し、さらに周知確認を実施している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>処方に係る禁忌や適用外については、調剤時および病棟薬剤業務時に処方医に疑義照会し、その内容、結果を診療録に記録し、その情報を収集・分析し、医薬品安全管理者へ毎月報告している。また、D I ニュースとして定期的に病棟、診療科に周知し、さらに周知確認を実施している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (③・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部、職種 医薬品情報担当薬剤主任 ) (所属： , 職種 )</p> <p>(所属： , 職種 ) (所属： , 職種 )</p> <p>(所属： , 職種 ) (所属： , 職種 )</p> <p>(所属： , 職種 ) (所属： , 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (④・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>質的監査における「質的監査評価票」に IC項目を盛り込み、監査を実施し各診療科長宛に改善依頼をしている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>「琉球大学医学部附属病院 診療記録監査要領」に基づき実施  量的監査実施：全入院患者を対象とし、毎週1回各診療科長宛に「診療記録記載依頼票」として改善依頼をしている。  質的監査実施：「質的監査評価票」を基に、監査チーム（各診療科医師18人+各部署6人）が、対象患者72名（全科、入院中患者を含む）を監査実施。診療情報管理センターへ報告後、各診療科長宛に改善依頼をしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（2）名、専任（1）名、兼任（15）名  うち医師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（7）名  うち薬剤師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名  うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)安全管理対策に係る実施状況の調査及び把握に関すること</li> <li>(2)安全管理対策に係る職員等の教育研修の実施及び意識向上の状況の確認並びに具体的な指導方法に関すること</li> <li>(3)リスクマネジメント・マニュアルの改正に関すること</li> <li>(4)医療事故等及び死亡事例に係る発生原因の調査、分析並びに関係部署に対する指導、助言に関すること</li> <li>(5)医療事故等及び死亡事例に係る診療録・看護記録等への記載が正確かつ十分になされているかの確認及び必要な指導に関すること</li> <li>(6)医療事故等及び死亡事例発生時における患者及び家族に対する説明等の対応状況の確認及び指導に関すること</li> <li>(7)医事紛争の原因の調査及び分析に関すること</li> <li>(8)琉球大学医学部附属病院医療安全管理委員会(以下「医療安全管理委員会」という。)の資料及び議事録の作成並びに保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること</li> <li>(9)医療安全相談窓口に関すること</li> <li>(10)その他、医療安全対策の推進及び連絡調整に関すること</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>高難度新規医療技術を用いた医療提供の適否に基づく申請書の提出が行われた場合、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等評価委員会に対して高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。</p>	

評価委員会が述べた意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知する。

高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、術後に患者が死亡した場合その他必要な場合も含み、定期的に、診療録等の記載内容を確認する。また、従業員の遵守状況の確認も行う。

高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時、また、従業者の遵守状況を確認した時は、その内容について病院長に報告する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  ・ 無 )

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  ・ 無 )

・ 活動の主な内容 :

未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否に基づく申請書の提出が行われた場合、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等評価委員会に対して未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。

評価委員会が述べた意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の提供の適否について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知する。

未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、術後に患者が死亡した場合その他必要な場合も含み、定期的に、診療録等の記載内容を確認する。また、従業員の遵守状況の確認も行う。

未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した時、また、従業者の遵守状況を確認した時は、その内容について病院長に報告する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 監査委員会の設置状況

・ 無

・ 監査委員会の開催状況 : 年 0 回

・ 活動の主な内容 :

次に掲げる事項を審議する。

病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査に関すること。

安全管理状況及び改善状況に関すること。

監査の実施に際して、病院の業務状況について病院長に報告を求め、又は必要に応じて自ら確認する。

委員会は審議の結果に基づき、学長に是正措置を講じるよう意見を提出する。

審議の結果及び前述の意見を公表する。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (  ・ 無 )

・ 委員名簿の公表の有無 (  ・ 無 )

・ 委員の選定理由の公表の有無 (  ・ 無 )



・公表の方法：

大学公式ホームページおよび病院公式ホームページでの公開

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
栗原 慎太郎	長崎大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
赤嶺 真也	赤嶺法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
儀間 小夜子	NPO 法人子ども医療支援わらびの会		医療を受ける立場にある者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
矢野 恵美	琉球大学大学院法務研究科		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
嘉目 克彦	琉球大学		学長が必要と認めた者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 207 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 15 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - (1) 安全管理の対策及び教育に関すること
  - (2) インシデント又は医療事故の判定に関すること
  - (3) リスクマネジメント・マニュアルに関すること
  - (4) 医療事故等が発生したときにおける事実確認、分析、調査検証等及び対策に関すること
  - (5) 医療事故等の分析等結果を活用した改善のための方策の立案、実施及び実施状況の確認等に関すること
  - (6) 医療事故等が発生したときにおける患者及び家族等への対応に関すること
  - (7) 医事紛争が生じたときの拡大防止に関すること。
  - (8) 訴提が提起されたときの対策に関すること
  - (9) 関係機関等への報告に関すること
  - (10) その他安全管理、医療事故等、医事紛争及び訴訟の重要事項に関すること

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ））・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ））・無
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

医療安全相談窓口の活動等に関して必要な事項を定め、相談窓口責任者、相談員、窓口担当者を置き対応している。また、相談により患者等が不利益を受けないよう適切に配慮している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

指針テスト 平成28年5月27日  
「医療安全に係る安全管理のための指針」

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

第2回病院長塾～病院長の権限および病院のガバナンス強化～ 平成29年1月28日（土）  
医療事故の調査などに関するシンポジウム 平成29年7月1日（土）

医療安全管理責任者：

第2回病院長塾～病院長の権限および病院のガバナンス強化～ 平成29年1月28日（土）

医薬品安全管理責任者：

平成28年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会 平成28年11月25日（金）  
平成29年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会 平成29年7月7日（金）

医療機器安全管理責任者：

平成29年度医療機器安全基礎講習会（第39回ME技術講習会） 平成29年7月22日（土）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）



(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 病院機能評価 (3rdG:Ver1.1) 平成27年4月23日・24日受審 認定第J C509-3号 平成27年5月30日～平成32年5月29日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【広報手段】 ・病院ホームページ、病院情報誌ホットライン、大学院・医学部・附属病院概要など 【広報内容】 ・病院指標（年齢階級別退院患者数、診断群分類別患者数 等） ・診療科部等の紹介 ・職員、専門医、認定医等の紹介 ・特集記事（治療に関することや、新規導入機器・施設等の紹介） ・イベント案内 など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 * 周術期の患者に対し、歯科口腔外科と手術を実施する診療科が連携して外科手術後の合併症予防のための口腔機能管理を行っている。 * 複数診療科にまたがる手術を要される患者に対し、手術実施診療科だけでなく病理医も含め合同でカンファレンスを行うなど、連携して対応にあたっている。 * 精神科入院患者で、身体疾患を併せ持つ患者に対して、精神科と精神科以外の診療科が連携し、必要に応じて精神科以外の診療科への入院受け入れが可能な体制となっている。 * チーム医療（緩和ケアチーム、排尿ケアチーム、NSTチーム、心臓リハビリチーム、在宅療養支援チーム）を実践し、複数診療科の医師及び多職種スタッフが連携して対応している。	



(様式第 8)

琉大医総第 461 号  
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

琉球大学医学部附属病院長  
藤田 次 貞

琉球大学医学部附属病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過につ

記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号ロ及び第 7 号ロの  
規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 ④論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置)	今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由
<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度実績 53件</li><li>・英語論文数の増加策を検討する目的で設置させた「英語論文ワーキンググループ」を活性化させ、継続的に英語論文作成への支援を行う。また、改めて、附属病院における論文数の増加が必要であるという認識を周知する。</li><li>・定例開催の臨床教授会及び病院運営委員会を活用し、ワーキンググループから定期的に論文数を報告する。なお、9月27日開催の病院運営委員会において、英語論文数の増加を図る必要があることの認識を共有した。</li><li>・各診療科の医局会議等を利用して、論文数の正確把握に努める。</li><li>・各診療科所属の若手医師に対して、国内学会等での発表を奨励し、その後の英文論文作成に際して、診療科長や指導医等が積極的な支援に努める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度実績 64件</li><li>・「英語論文ワーキンググループ」を活性化させ、継続的に英語論文作成への支援を行うことができなかった。</li><li>・9月27日開催の病院運営委員会において、英語論文数の増加を図る必要があることの認識を共有し、昨年度実績53件から今年度実績64件と増加したが、要件である70件に満たなかった。</li></ul>

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

・病院運営委員会、臨床教授会及び医局長会で特定機能病院承認要件をクリアするため英語論文数の増について周知する。

・英語論文を執筆した医師又は診療科に対するインセンティブを付与する旨、検討を開始する。  
戦略的経営企画会議（7/24開催）にて、英語論文を執筆した医師又は診療科に対するインセンティブを付与する旨、検討を開始することが了承された。

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。



(様式第 8)

琉大医総第 461 号  
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

琉球大学医学部附属病院長  
藤田 次 良

琉球大学医学部附属病院の論文発表等の向上に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 論文発表等の実績

英語による発表論文数	64 件
------------	------

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資すると判断されるものの数を記入すること。

(注) 2 対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る）。

2 論文発表等を向上するための具体的な予定措置

・病院運営委員会、臨床教授会及び医局長会で特定機能病院承認要件をクリアするため英語論文数の増について周知する。

・英語論文を執筆した医師又は診療科に対するインセンティブを付与する旨、検討を開始する。戦略的経営企画会議（7/24開催）にて、英語論文を執筆した医師又は診療科に対するインセンティブを付与する旨、検討を開始することが了承された。



(様式第 8)

琉大医総第 461 号  
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

琉球大学医学部附属病院長  
藤田 次 郎

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（2）名、専任（1）名、兼任（15）名  
うち医師：専従（0）名、専任（1）名、兼任（7）名  
うち薬剤師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名  
うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（3）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 30 年 3 月までに業務の見直しを行い、医師の専従化を実施する。  
平成 30 年 4 月 1 日から薬剤部所属の薬剤師 1 名を、医療安全管理部門へ専従配置する予定である。

